

クレジット:

UTokyo Online Education 学術俯瞰講義 2016 小島 毅

ライセンス:

利用者は、本講義資料を、教育的な目的に限ってページ単位で利用することができます。特に記載のない限り、本講義資料はページ単位でクリエイティブ・コモンズ 表示-非営利-改変禁止 ライセンスの下に提供されています。

<http://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/>

本講義資料内には、東京大学が第三者より許諾を得て利用している画像等や、各種ライセンスによって提供されている画像等が含まれています。個々の画像等を本講義資料から切り離して利用することはできません。個々の画像等の利用については、それぞれの権利者の定めるところに従ってください。



学術俯瞰講義 「古典は語りかける」

第九回 2016.6.15 東亜暦 丙申歳五月十一日

小島 毅 (文学部次世代人文学開発センター)

論語を学ぶ、 論語に学ぶ 「**禮**について」

前回の質問をうけて 孔子と顔回の関係を伺わせる 孔子の人間味あふれる章を1つ

- ◆ 子、匡(きょう)に畏す。顔淵 後(おく)る。子曰く、「吾女を以て死せりとなす」と。曰く、「子在(いま)す、回 何ぞ敢て死せん」と。(先進篇)
- ◆ 「再会することができた師弟の間に、生死をもにしようという愛情を確かめる会話がかわされた。師弟の情誼を越えた同性愛に近いものを感じる」(貝塚茂樹『論語』中公文庫、1973年、311頁)

子曰、
道之以政、齊之以刑、民免而無恥。
道之以德、齊之以礼、有恥且格。
(為政第二の第三章)

子曰く、「これを道(みちび)くに政を以てし、これを齊(ととの)うるに刑を以てすれば、民免れて恥無し。これを道くに徳を以てし、これを齊うるに礼を以てすれば、恥ありてかついたる。

なぜ政・刑ではだめなのか？

「政」は皇疏によれば「法制」。

- ◆ 皇疏が引く沈麟士の説は以下のとおり。「法と刑のみでは民は表面的に法・刑に従うだけですませて**その心が感化されることはなく**、したがって自然の性を失ってしまうのに対して、徳と礼を用いることで**民心を感化できる**」、と。
- ◆ 「格」は『集解』では「正」、『集注』では「至」。

渋沢栄一『論語講義』

「今日の君主ないし為政者は、法制をこととし違犯者を制裁すれば足るかというに、決して然らず、人民の智能啓発すれば啓発するほど、上位に立つ者の道德もまた高まらざるべからず。……故原首相が現に二年前に政治は力だと豪語して家の子郎党は大いに有難がったようであるが、勿論政治には力も必要なれども、力のみを恃み徳を重んぜざるときは、その弊や人を人とも思わぬ増上慢に陥り、終りを全うせぬものである。」

(初版は1925年、引用は講談社学術文庫の(一)78頁、1977年による)

徳治主義 対 法治主義 ？

- ◆ この2つの語彙は近代になってから一般化した
- ◆ 伝統的には儒教は自分たちの指針を**礼治**とした
- ◆ いわゆる法家思想に対して「あいつらは法治だ」と批判しているわけではない
- ◆ 理想的な統治として、(私たちの語でいう)法治の根幹に聖人である君主の人格的徳性があることを重視していた = **律令制度**
- ◆ 聖人が定めた**礼**によって民を導くことが政治の要諦であり、刑罰によって犯罪行為を取り締まる**だけでは**国は治まらないという考え方をとっていた

子入大廟每事問。
或曰、孰謂鄒人之子知禮乎、入大
廟每事問。子聞之曰、是禮也。
(八佾第三の第十五章)

子 大廟(たいびょう)に入りて事ごとに問う。ある
ひと曰く、「たれか鄒人(すうひと)の子は礼を知
ると謂(い)うか、大廟に入りて事ごとに問う」と。
子 これを聞きて曰く、「これ礼なり」と。

孔子は大廟での儀礼について 本当に知らなかったのか？

- ◆ 『集解』が引く孔安国の説では、「批判者は、礼を知っているなら重ねて訊ねるはずがない」と思い込んでこのように言った。しかし、知っていても重ねて訊ねるべきであって、そうしてこそ慎み深いといえる」と解する。
- ◆ 陳祥道『論語全解』は孔安国説に従いつつ、礼の具体的な細則を知っていてもその義は知りがたいのでさらなる奥義をきわめるために、礼を担当する係官にいちいち質問したとする。

孔子は大廟での儀礼について 本当に知らなかったのか？

- ◆ 『集注』も基本的に同じで、「孔子は知っていたが質問した」と解釈する。なぜなら、孔子は聖人なので礼を知らないはずがないから。
- ◆ 王陽明は「聖人が礼楽の具体的な物事についてすべて知っている必要はない。聖人には天理という根本がわかっている。あらゆる決まりや分量はそこから出てくるのだからいちいち覚える必要はない。知らないことを質問できるのも、天理による」とする(『伝習録』巻下)。

孔子は大廟での儀礼について 本当に知らなかったのか？

- ◆ 荻生徂徠『論語徴』では、「毎事問」という行為自体が礼式として定められていたと解する。郷党篇にもこの句があることがそれを傍証する。したがって、孔子はその意味で礼式をよくわきまえており、或人の批判は当たらないし、孔子の「これが礼だ」とは文字通りの意味である。

厩焚。子退朝曰、傷人乎。不問馬。 (郷党第十の第十三節)

厩(うまや) 焚(や)けたり。子 朝(ちょう)より退(しりぞ)きて曰く、「人を傷(そこな)えるか」と。馬を問わず。

古典落語「厩火事」の題名の由来になった故事。

厩火事のあらすじ

- ◆ 登場人物 お崎(女髪結い)、男(お崎夫婦の仲人をした)、お崎の夫(無職で昼から家で酒を飲み遊んでいる)
- ◆ お崎が仲人の家にやってきて夫と別れたいという。仲人は孔子と麴町の旦那と対照的な2例をあげ、夫の愛情を試すことを勧める。お崎は助言通り、帰宅してから夫が大事にしている骨董の皿をわざと壊す。「おい、指にけがしてねえか？ 皿なんかいくらでも買えるんだ。かけがえがねえのは、おまえのからだだよ」という夫のことばに涙ぐむお崎。ところが.....

厩火事のオチ

- ◆ お崎 「うれしいじゃないか、お前さん。あたしのからだがそんなに大切かい？」
- ◆ 夫 「あたりめえじゃねえか。お前に指にけがでもされてみねえ。
- ◆ 昼間から家で酒を飲んでいられなくなる」
- ◆ おあとがよろしいようで・・・

何かに依拠したのではなく、小島が高座を聞いた記憶を元に上記の科白を作成

なぜ「馬を問わず」だったのか？

馬の安否を問わなかった理由について、『集解』は鄭玄の説、「人を重んじて畜を賤しんだから」を引く。皇疏は「人を重んじて馬を賤しんだから」と言い換え、王弼の言を引く。それによると、馬の安否を問わなかったのは、当時、馬を重んじる連中があったのでそれを矯めようとしたからだという。つまり、孔子は世の風潮を暗に批判するため、馬も気になっていたのだが**作為的にわざと馬の安否を問わなかった**という解釈。

なぜ「馬を問わず」だったのか？

『集注』は「馬を愛さないわけではなかったのだが、人間を傷つけることを心配する気持ちが大きくて、まだ馬について問うゆとりがなかったのだ」と解する。古注と同じように見えるが、その意味内容は異なっている。孔子という人物をどう造形するかが違うのだ。王弼の解釈のように作為性を強調するのは対極にある、孔子の**その時のありのままの心情からの発言**と捉えている。

なぜ「馬を問わず」だったのか？

鄭玄の「重人賤畜」は、礼としてそうであったということの意味する。孔子は社会規範どおりの行為をした、それゆえ崇敬されるべきだという論理である。しかし、朱熹は「愛」・「意」という心情語彙をもって孔子の発言を説明する。この点で、朱熹が描く孔子は、いわゆる人間性に溢れている。ただし、朱熹はそのあとに「人を貴び畜を賤しむのは、理としてそうあるべきだ」と付け加えることも忘れない。鄭玄が礼規範からあげた「重人賤畜」と同じ内容を、**理という朱子学の鍵概念**によって説明する。

朱子学の孔子像

作為的・意識的にそうするのではなく、心の自然な動きに従う振る舞いでありながら、それが理にかなっている、そこにこそ聖人孔子の聖人たる所以がある。その意味で、朱熹の解釈は、私たちが近代思想の枠内で使っている意味での「孔子の人間愛」を主張しているのではない。孔子は自然に振る舞うことで理にかなってしまう聖人なのだ。

でも、動物愛護精神からは・・・

ただ、馬の安否を問わなかった行為は、**万物一体の仁**を強調する立場からは疑念をいだかせるものだった。そこで、経文の句読の切り方を変えることで、この話を解釈変更してしまおうとする試みが生じる。すなわち、「曰、傷人乎。不問馬」を「**曰、傷人乎不。問馬**」とするのである。つまり、「曰く、人を傷つくるやいなや、と。馬を問う」。孔子は使用人の安否確認のあとで、馬についても質問していたのだ。

でも、動物愛護精神からは・・・

ただ、馬の安否を問わなかった行為は、**万物一体の仁**を強調する立場からは疑念をいだかせるものだった。そこで、経文の句読の切り方を変えることで、この話を解釈**変**てしまおうとする試みが生じる。すなわち、「曰、傷人乎。不問馬」を「**曰、傷人乎不。問馬**」とするのである。つまり、「曰く、人を傷つくるやいなや、と。馬を問う」。孔子は使用人の安否確認のあとで、馬についても質問していたのだ。

改憲

.....オチです

図版が全くないのも寂しいので、 おまけの画像をいくつか

著作権等の都合により、
ここに挿入されていた画像を削除しました。

ブログ「歴史大好き♪夢の時間旅行」より
http://blogs.yahoo.co.jp/lee_senchan/20992124.html

http://blogs.c.yimg.jp/res/blog-74-53/lee_senchan/folder/1023434/24/20992124/img_0

四頭だての馬車(秦始皇帝の兵馬俑)



Image by zhshzhsh, from フォト蔵
(ref.2016/06/27)
<http://photozou.jp/photo/show/267696/47747079>
CC BY 2.1 JP

日光東照宮の神厩舎



Photo by そらみみ, from Wikimedia Commons (ref.2016/06/27)
https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Horsehouse_of_Nikko_Tosho_Shrine.JPG
CC BY-SA 3.0

見ざる言わざる聞かざるの
三猿像はこの壁に彫られている

仏教由来だろうが、一説に『論語』の

非礼勿視

非礼勿聴

非礼勿言

非礼勿動

とも関係があるとされる

次は藤原克己先生が担当

- ◆『徒然草』から、少なくとも
第217段と第93段は予習で読んでおくように
とのことでした